

令和4年 第2回 古地図散歩報告 (11月13日実施)

「美濃町の今と昔 ～古地図とともに歴史をたどる～」 講師：古田 憲司 氏

〔当日コース〕

- ①美濃史料館・旧今井家住宅・あかりアート館→②宝勝院→③小坂酒造場→④円通寺⑤願念寺→休憩→
⑥小倉山城跡→⑦上有知湊・曾代用水・美濃橋→⑧清泰寺→⑨八幡神社→旧今井家住宅（解散）

1. 概要 (当日レジュメより抜粋)

1. 上有知について

「有知郷」奈良時代～平安時代『和名類聚抄』（平安中期）

「上有知庄」（平安時代末 長寛元年1163）『美濃国諸荘未進注文』

領主 上有知氏（鎌倉初期、承久の乱）『尊卑分脈』『吾妻鏡』

佐竹氏（承久の乱後～戦国時代16世紀中ごろ）

佐藤氏（16世紀中ごろ～関ヶ原合戦まで）

金森氏（1600年～1611年）

幕府領

尾張藩領（1615年～ ）（1783年～）上有知代官支配

2. 金森長近について

美濃市出身の人物で大永4年（1524）生まれ、慶長13年（1608）京都伏見の別邸にて84歳で没した。若い頃から織田家の家臣となり、信長に仕えて越前大野郡の3分の2を拝領し越前大野城主。秀吉の時代になると飛騨一國を拝領し飛騨高山の領主。関ヶ原合戦には東軍に属し、恩賞として飛騨への口郡であった武儀郡2万3千石（3千石は河内金田）を拝領して入部し上有知藩主となった。戦国時代の後半から近世初頭まで生き抜いた極めて目先の利く、希なる人物の一人であることには間違いない。金森長近については、上有知拝領が晩年であったため、すぐに京都伏見に移ったと考えられ、上有知で発給した文書は写しがほんの1通しか残っており、上有知支配の実態はよくわかっていない。町作り、上有知湊の築造など大きな遺産が残っており、そこから彼の人物像を考察するしか方法がない。





2. 訪れた場所 コース地図

出典：国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/#16/35.545933/136.910784/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1>

